

ハートフルなんぶ

2025. 9月号 vol. 318



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

第27回南部図書館まつりの開催について

10月25日(土)・26日(日)の2日間、南部図書館まつりを開催します。

リサイクル本の配布、ワークショップ等を予定しております。詳細はホームページ等でお知らせいたします。



Essay

『夜目が効く佐久間象山』

「秋の夜長」とか「秋の日はつるべ落とし」などと言うように、秋になると日照時間が短くなり夜が長くなったように感じます。電気による照明の無かった江戸時代では、油に火をともして灯りとしていました。ロウソクは値段が高くて庶民には贅沢品でした。ですから夜遅くまで灯りを使って勉強することなどできません。

ところで松代出身の佐久間象山は、子供時代はテテッポウ(松代ではフクロウのこと)と呼ばれていました。目がギョロっとしていたということでしょうか。象山は勉強熱心で、やがて江戸に出て学者として有名になるのですが、同じ学者仲間からは「象山はいつ寝てるかわからない」と言われました。それだけ遅くまで本を読んでいたのでしょうか？

松代の商人の子どもで明治になってキリスト教伝道者となった松本総吾という人がいました。この人は少年時代に象山に可愛がられたそうで、象山の目を「茶色で気味が悪かった」と証言しています。ということは象山の目の虹彩(目の色のついている部分)は、普通の日本人よりも薄かったのかもしれませんが。そう考えるといろいろと説明がつくことがあります。

虹彩の色が薄い西洋人は、照明の暗い部屋でも普通に暮らせます。西洋のレストランでは暗いため日本人にはメニューが読みにくいそうです。逆に西洋人にとって日本の照明は明るすぎる。象山は陽が沈んで薄暗い部屋で誰よりも長く本が読めたのかもしれませんが。

また象山は、どうやって入手したのかは分かりませんが「青めがね」と呼ばれるサングラスのようなものを愛用していました。これをかけると雪道でもまぶしくないと言紙に書いてます。それを失くした時には、黒い布でめがねの代用をしていたと言います。そこまでするほど雪をまぶしく感じるということは、やはり象山の目は日本人離れしていたのかもしれませんが。象山の才能を支えていたのは、この特殊な目だったのかもしれませんが。

寄稿:ひよこ豆

『バンクハザードによろこ』中山 七里／著 KADOKAWA <Fナ>
 『ダークネス』桐野 夏生／著 新潮社 <Fキ>
 『라이어ハウスの殺人』織守 きょうや／著 集英社 <Fオ>
 『ニュースが消える日』堂場 瞬一／著 講談社 <Fト>
 『暴走正義』下村 敦史／著 幻冬舎 <Fシ>
 『明日の幽霊は踊らない』赤川 次郎／著 集英社 <Fア>
 『酒亭 DARKNESS』恩田 陸／著 文藝春秋 <Fオ>
 『新・教場 2』長岡 弘樹／著 小学館 <Fナ>
 『一橋桐子<79>の相談日記』原田 ひ香／著 徳間書店 <Fハ>
 『ザ・エッセイ万博』万城目 学／著 ポプラ社 <914マ>
 『旅で潜在意識が変わる!』宮増 侑嬉／著 KADOKAWA <145ミ>
 『NG 行動がわかる防災事典』タイチョー／著 KADOKAWA <369タ>
 『自然のしくみがわかる地理学入門』水野 一晴／著 ベレ出版 <450ミ>
 『オトコの釣りメシレシピ』上田 勝彦／著 玄光社 <596ウ>
 『「わかってもらう」ということ』川添 愛／著 KADOKAWA <810カ>
 『千年たどる家系図物語』渡辺 宗貴／著 時事通信出版局 <288ワ>
 『見てすぐできる!図解 60歳からの「紙モノ」整理』渡部 亜矢／著 青春出版社 <597ワ>
 『わたしを幸せにする 0円生活』田村 ゆに／著 幻冬舎 <611タ>
 『ジュエリーを愛でる 100のことば』笠原 可名／著 翔泳社 <755カ>



今月の 新刊案内

『オーロラの下、北極で働く』松下 隼士／文・写真 雷鳥社 <297マ>
 『銀河の片隅で科学夜話』全 卓樹／著 朝日出版社 <404セ>
 『世界一美しい星空の教科書』大平 貴之／著 宝島社 <443オ>
 『あなたがブラックホールについて知っていることはほぼすべて間違っている』
 バッキー・スメサースト／著 山と溪谷社 <443ス>
 『夢を見る技術』ラウル・ジャンディアル／著 光文社 <491シ>
 『明日が変わる睡眠の科学大全』林 悠／監修 ナツメ社 <498ア>
 『熟睡できるぐっすり眠れる食べ方大全』西多 昌規／著 文響社 <498ニ>
 『夜のお店解剖図鑑』高橋 哲史／著 エクスナレッジ <526タ>
 『夜の道標』芦沢 央／著 中央公論新社 <Fア>
 『夜に星を放つ』窪 美澄／著 文藝春秋 <Fク>
 『アフターダーク』村上 春樹／著 講談社 <Fム>
 『夜の潜水艦』陳 春成／著 アストラハウス <923チ>
 『夜の底を歩く』レイラ・モトリー／著 早川書房 <933モ>



9月のテーマ 「夜」

開館時間：午前10時～午後6時

■ は休館日です

南部図書館
開館カレンダー

2025年9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2025年10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	